

Etsuko Terada & Kikuo Watanabe Duo Piano Concert

寺田悦子
渡邊規久雄

デュオ・ピアノ・コンサート

四手連弾の宇宙

シューベルト

ロンド イ長調 D951

アレグロ イ短調「人生の嵐」D947

幻想曲 ヘ短調 D940

F. SCHÜBERT

Rondo A-Dur D951

Allegro a-moll "Lebensstürme" D947

Fantasie f-moll D940

モーツァルト

四手のためのソナタ ヘ長調 K.497

W.A. MOZART

Sonate für Klavier zu 4 Händen F-Dur K.497

ベートーヴェン

大フーガ 変ロ長調 Op.134

L.v. BEETHOVEN

Grosse Fuge für 4 Hände B-Dur Op.134

* 曲目は変更になる場合がございます * 未就学児の同伴はお断りいたします

2020年6月12日(金)19:00 紀尾井ホール

7:00p.m., Friday, June 12, 2020 at Kioi Hall 四ッ谷・赤坂見附・永田町から徒歩10分、麴町から徒歩6分

S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000

<ジャパン・アーツ夢倶楽部会員>S¥5,400 A¥4,500 B¥3,600

【特別割引チケット】◎学生券=各席1,000円引き *ジャパン・アーツびあコールセンター及びWEBジャパン・アーツびあで受付(社会人学生を除く公演当日に25歳までの学生が対象/夢倶楽部会員で学生の方も同価格/当日は学生証を拝見いたします)◎車椅子席=ご本人と付き添いの方1名が割引になります。*ジャパン・アーツびあコールセンターで受付事前にご予約ください。

2月8日(土) 前売開始 <ジャパン・アーツ夢倶楽部会員>WEB 2/1(土) 10:00 TEL 2/2(日) 10:00 <ジャパン・アーツびあネット会員>WEB 2/6(木) 10:00

ジャパン・アーツびあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp/ 紀尾井ホールチケットセンター (03)3237-0061 www.kioi-hall.or.jp/

チケットびあ f.pia.jp 0570-02-9999(Pコード 174-475) イープラス eplus.jp ローソンチケット0570-000-407(Lコード 35872)

【主催】ジャパン・アーツ 【後援】国際ピアノデュオ協会、公益財団法人日本ピアノ教育連盟、日本ショパン協会、公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

「四手連弾の宇宙」～ベートーヴェン生誕250年に捧ぐ～

ピアノを弾いたことのある人なら、一台のピアノに二人が並んで一緒に弾く四手連弾の楽しみを経験した事がきっとおありでしょう。連弾音楽は初心者がピアノに親しむ手段としても大いに効果がありますが、実はモーツァルト以降今日に至るまで多くの芸術的価値のある素晴らしい作品が生まれました。モーツァルトは姉ナンネルや弟子と弾くために、あるいは公開演奏のために何曲もの連弾曲を作曲しました。その中でも「ソナタへ長調K.497」は、管弦楽的な効果を持つ傑作です。

19世紀になると鍵盤楽器として急速にピアノが進化し普及するとともに、ウィーンではそれまで宮廷や一部の貴族の館でしか聴くことの出来なかった音楽が、市民の家庭でも室内楽、ハウスミュージックとして盛んに演奏されるようになりました。オーケストラ曲や室内楽曲も連弾に編曲されることによって身近な音楽となったので、出版社はこぞって作曲家にオリジナル連弾曲のみならず編曲を依頼しました。

そんな時代に、モーツァルトを超える連弾用の大作品群を書いた《連弾の王様》がシューベルトです。その多くは舞曲や行進曲など気楽に楽しめる音楽でしたが、最晩年の1828年(没年)には「幻想曲へ短調」「アレグロ」「ロンド」の傑作三曲が生まれました。中でも「幻想曲へ短調」は連弾曲の金字塔と言われ、シューベルトはピアノ・ソナタや管弦楽曲では表現できない独自の音楽世界を連弾曲によって築いたと言えます。

一方ベートーヴェンの「大フーガ」は、晩年の一群の弦楽四重奏曲の一つ、作品130の終楽章として書かれたフーガを、作品134としてベートーヴェン自ら連弾用に編曲し出版したものです。四重奏曲の初演ではその革新的な音楽が多くの信望者からも理解されなかった「大フーガ」ですが、四手のピアノで再現することによってベートーヴェンの意図した『大宇宙』が聴こえてくる事を信じ、ベートーヴェン生誕250年の年に捧げたいと思います。

寺田悦子、渡邊規久雄

寺田悦子

Etsuko Terada

独自の企画性に富んだソロ・リサイタルや渡邊規久雄とのデュオ・コンサートを通して、透明感のある音色と豊かな情感で聴衆を魅了する寺田悦子は16歳でウィーンに留学。2019年にデビュー50周年を迎え、3回の記念コンサート・シリーズを展開してきたことは記憶に新しいところです。

ルーベンシュタイン自身が審査した1977年第2回ルーベンシュタイン国際ピアノ・コンクール第3位金賞、1978年第6回リーズ国際ピアノ・コンクール入賞、日本ショパン協会賞、飛騨古川音楽賞などを受賞。東京・名古屋・大阪をはじめとする国内各地でのリサイタルやN響をはじめとする日本の主要オーケストラとの共演はもちろん、「プラハの春」などの国際音楽祭出演、イスラエル・フィル、ヘルシンキ・フィル、ドレスデン・フィル、北BBC響等数多くの海外オーケストラとの共演、英国、ドイツ、フィンランド、ロシア、ラトヴィア、アメリカ、メキシコ、パナマ、ペルーでのソロ・リサイタル、ニューヨークのカーネギーホールでの演奏等、国際的な活躍を展開してきました。

日本音楽コンクール、東京音楽コンクール、全日本学生音楽コンクール全国大会等数多くのコンクール審査員を務め、またドイツやオーストリアで演奏とマスタークラスを行うなど、後進の指導にも積極的にあたっています。

CDにショパン作品集「ノアンI」「ノアンII」、渡邊規久雄とのデュオ・ピアノ「春の祭典&ラフマニノフ」(レコード芸術特選盤)など。

渡邊規久雄

Kikuo Watanabe

北欧、特にフィンランド音楽に造詣が深く、中でもシベリウスを生涯のライフワークとして演奏活動の中心に据えている渡邊規久雄。2003年、2007年、2010年、2015年、そして2019年と5回にわたって歩んできたシベリウスのピアノ音楽全曲シリーズがすべてCD化され、シベリウス生誕150年記念の年であった2015年にはNHK-BSプレミアムのクラシック倶楽部『シベリウスの室内楽の世界』に出演、東京と大阪で行ったオール・シベリウス・プログラムによるリサイタルの東京公演はNHK-FMで放送されるなど、シベリウス・ピアノ音楽の第一人者として活躍してきた長年の功績は、2015年12月にフィンランド・シベリウス協会から歴史と伝統ある《シベリウスメダル》を授与されるという栄誉に結実しました。

1974年インディアナ大学を成績優秀賞で卒業、1976年に同大学院を修了。1976年7月のデビュー・リサイタル以降、ショパンのポロネーズ全曲、シューベルトの最後の3曲のソナタ、シベリウス・プログラムなどによるリサイタル、ラトヴィアの首都リガやヘルシンキ、東京、大阪、名古屋等での寺田悦子とのデュオ・コンサート、国内はもとよりサンクトペテルブルグ、モスクワ、ハバロフスクなどでのオーケストラとの共演など、国内外で精力的に演奏活動を行っています。CDに「シベリウスのヴァイオリン作品集I・II(ヴァイオリン:佐藤まどか)」など。武蔵野音楽大学ピアノ科教授。大阪ザ・フェニックスホールの音楽アドバイザー。

<次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さい>

- ① やむをえない事情により、曲目などが変更になる場合がございます。
- ② 公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットの、キャンセル・変更等はできません。
- ③ いかなる場合も再発券はできません。紛失等には十分ご注意下さい
- ④ 演奏中は客席に入れません。
- ⑤ 未就学児の同伴はご遠慮ください。また就学児以上の方もご入場にはチケットが必要です。
- ⑥ この公演はすべて指定席です。指定の座席にてご鑑賞下さい。
- ⑦ 他のお客様のご迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。
- ⑧ 場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話の使用、これらに類する行為は固くお断りいたします。
- ⑨ ネットオークションなどによるチケット転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。

Etsuko Terada & Kikuo Watanabe Duo Piano 'Le sacre du printemps'

寺田悦子 & 渡邊規久雄 デュオ・ピアノ “春の祭典”

レコード芸術
特選盤

ストラヴィンスキー：舞踊音楽「春の祭典」
ラフマニノフ：組曲第2番 Op.17

TRITON OVCT-00084 ¥2,857+税

録音：2012年3月7日-9日 富山・北アルプス文化センター